

石巻支援報告書

2012年12月22日

作成：東北ヘルプ

東北ヘルプは、「出前寺子屋」の協力を得て、2012年8月～11月にかけて、以下の事業を行いましたのでご報告いたします。

- a. この支援は、仮設住宅に住む人々に生きる喜びを取り戻してもらうために、漢字検定試験の学習会を行い、定期的に特定の被災者と集会を持つことにより、被災者の孤立による自殺などを予防し、末永く被災者の自立を見守りつつ伴走することに主な目的がある。
- a-2. この支援によって集まった人々の間に、新しいコミュニティが生まれている。このコミュニティにおける絆を強めるために、参加者は学習会の後にフラワーアレンジメント作成を行う等の活動を開始している。このようにして、学習会は被災者が相互に支え合うような共同体を構築するものとなっている。

b. 8月～11月にかけて、学習会は下記の日程で行われた。

月／日	7/1	7/22	8/5	8/26	9/9	9/23	10/7	10/13	10/21	11/10	11/25	12/9
出席者総数	22	24	21	21	24	24	22	11	21	21	25	23
内訳男子	5	6	6	6	6	7	7	2	5	5	6	7
内訳女子	17	18	15	15	18	17	15	9	16	16	19	16
内訳学生	10	10	9	9	8	9	12	8	9	11	11	10
内訳一般	12	14	12	12	16	15	10	3	12	10	14	13
支援スタッフ	6	5	5	7	6	6	5	2	5	5	5	5

- c. この支援活動により、石巻市内仮設住宅の現状について下記のことが知られた。
- c-1. 住いを失くされた方々は、昨年7月から仮設住宅あるいは借上げ住宅に入居された。出前寺子屋の会場である仮設開成団地は、戸数は1100戸と東北3県でも最大の仮設住宅団地である。尚、石巻市の被災者住宅は以下のように報告されている（いずれも4月現在）。
- c-1-1. 仮設住宅団地：131団地に、16,942人が入居している。
- c-1-2. 市が借り上げた民間賃貸住宅は6,568戸であり、入居者は17,568人となっている。
- c-2. その後1年5カ月が経過しようとしているが、いまだ現状から抜け出せる方はきわめて少ない。津波被害地の多くは住宅地としての再利用が不可能であり、それに代わる集団移転地の確保が遅々として進んでいない。
- c-3. そうしたなか、11月5日に石巻市の内陸部で集団移転地の起工式が執り行われた。市の計画によると「一戸建て1,100戸、災害公営住宅350戸を建設し、3700人が居住の予定」とある。また事業期間は2020年度までの9年間とのこと。ようやく復興計画はスタートラ

インに立ったが、この計画規模では仮設開成の一団地約 4,000 人にも満たないのが現実である。

c-4. 仮設住宅の提供は3年とされている。現状を見る限りさらに多くの時間を要すると思われる。

c-5. 学習会参加者は、住まいを津波で失い、仮設住宅あるいは借上げ住宅に仮住まいされている方々である。彼らはこのような現状の中にあっても学習動機を失うことなく、学びの機会を活かして生きる喜びを確認している。

d. 東北ヘルプは、CGMB よりお預かりした資金を用いて、ボランティア交通費として 93,570 円を負担した。



(以上)